

働くこととリカバリー

| P S モデルの実践から

社会福祉法人あすなろ福祉会

働くために必要なのは？

夢

サポーター

情熱

あなたの夢・大切なことは？

- * プロのサッカー選手になりたい**
- * 一戸建ての家が欲しい**
- * もう一度釣りがしたい**
- * 結婚したい**
- * 親孝行したい**
- * 人に好かれて、友達が欲しい**
- * お金を稼いで好きな服を買いたい**

リカバリーってなんだ？？

リカバリーと働くこと

リカバリー定義①

“リカバリーは自分の地域で生活し、働き、学び、完全に参加するプロセスである。”

Presidents New Freedom Commission (2003)

リカバリー定義②

“リカバリーは一つの過程、生活の仕方、姿勢、日々の課題への取り組み方である。・・・願いは意味のある貢献の出来る地域で生活し、仕事をし、人を愛することである。”

(Patricia Deegan.1998)

リカバリーの4つの段階

希望

元気を取り戻す

自己責任

生活の中の有意義な役割

あなたが仕事に 求めているものは？

経済的報酬

評価

絆

喜び

成長

生きること

自己表現

達成感

人の役に立つ

余暇の充実

自分の望む生活

**精神障害のある方に
「あなたは、なぜ働きたい？」**

- * 一人暮らしをしたい
- * いざれは結婚をしたいから。
- * 生活保護をやめたい
- * 自分の欲しいものを買いたい
- * 一人前になりたい

迷信

- * 働くことはストレスの原因
- * ストレスによって再発
- * きちんと病気について知っていない

真実は

- * 働けないストレスだってある
- * 働くことは「当たり前」になること
- * 自尊心・自己効力感の獲得、社会に役に立っている感覚が回復につながる

精神障がいのある人と仕事

62%



仕事をしたい人

17%



働いている人

厚生労働省発表資料 2008.1.18

これまでの就労支援の例

ステップアップ方式で力をつける！！

ハードル1：評価

- 症状が軽く年単位で安定している
- 医者が「働ける」と判断
- 訓練施設の仕事ができる
- 支援者の言うことが聞ける

ハードル2：訓練

- 清掃・調理・喫茶実習
- ボールペン組み立て・ピッキング
- OA講習
- 対人技能訓練
- 嫌な仕事も根気よく

ハードル3：職場斡旋

- 訓練の様子から決定
- 主に障害者枠での職場
- できる仕事を中心に

ハードル4：定着支援

- 実際の職場での援助がやはり必要
- 現場でのジョブコーチ
- 時と共に支援は減っていく

よくあること・・・

まずご本人の希望は聞くけど

「でもね・・・」

**「できないこと」をあげて、
現状のシステムに照らし合わせ**

足切りラインの設定

I P S モデル援助付き雇用

始まりは “仕事探し”

I P S モデルとは？

I P S : Individual Placement and Support
(個別職業紹介とサポートモデル)

- 1990年代前半アメリカで開発された一人ひとりが働くことへの応援のやり方
- I P Sは多くの研究で、今までの支援法より早く・長く働けることが証明されている。
科学的根拠に基づく実践プログラム(EBP)の1つ

I P S モデルの 基本原則

- ①働きたいと思う全ての精神障害者が対象
- ②就労支援の専門家と精神保健福祉の専門家はチームとなり支援する。
- ③一般雇用（一般企業や公的機関等事業体の障害者雇用を含む）を目標とする。
- ④社会保障に関する相談サービスを提供する。
- ⑤働きたいと本人が希望したら、迅速に求職活動を始める。
- ⑥就職後のフォローアップは継続的に行われる。
- ⑦利用者の好みや希望に基づいて、支援者は企業関係者とコンタクトをとり関係作りを行う。
- ⑧以上①～⑦は利用者の好みや希望が優先される

（日本版 I P S 型就労支援の標準モデル第1版 2013年3月）

応援 1. はじまり

- 「働きたい」と表現したときが
準備のできたとき
- 仕事を探そう！
- 自分のやりたい仕事は？

応援2. 働く場所選び

- やってみたい仕事は？
- 得意な分野は？
- 働き方を考えよう
- 早く職場探しを始めよう
- チャレンジOK
- 収入と生活のバランス

応援3. 働いてみる

- みんなと一緒に仕事をする
- 短時間・短期間から初めてもよい
- 障がいをどのように知らせるかは自分で決める
- 必要な間はサポートを利用

応援4. より上を目指す

- 自分の夢やゴールは？
- 新しい自分の魅力を再発見する
- 大切な自分の人生を生き生きと輝いたものにする

“働いて元気になる！”

支援方法の違い

	ステップアップ方式	I P S 援助付き雇用
働きたい 気持ち	評価を重ねて慎重にG Oサインをもらう	その人の「働きたい」 がはじめどき
就職への 準備	訓練を重ねて地力につ けていく	興味と強みを活かして すぐに職探しを始める
職場にて	障害を開示すればジョ ブコーチー定期間がつ いてくれる	障がいを開示しなくて もジョブコーチは必要 に応じてついてくれる
ゴール	職場に定着し、安定し た生活を手に入れる。	自分の夢に向かい働い て元気になる。

I P S 援助付き雇用では 競争的雇用 (competitive employment) を目指す

* 競争的雇用とは

労働マーケットにある「一般的な」仕事

* 最低賃金以上の収入

* 通常業務で、健常者と同じ職場

* 誰でもが就ける仕事（精神障がい者用に
用意された仕事ではない）

* 仕事は個別に用意される

I PS援助付き雇用：まとめ

- * I PS支援は今までの支援より2倍の就職率があった（55%対22%）
- * I PS支援は就労期間や収入でも上回った
- * より良い成果はI PSの原則をすべてそろえることで得られた
- * 誰が働けて誰が働けないかを初めに予測することは不可能であり、除外基準なしのポリシーがもっとも重要である。

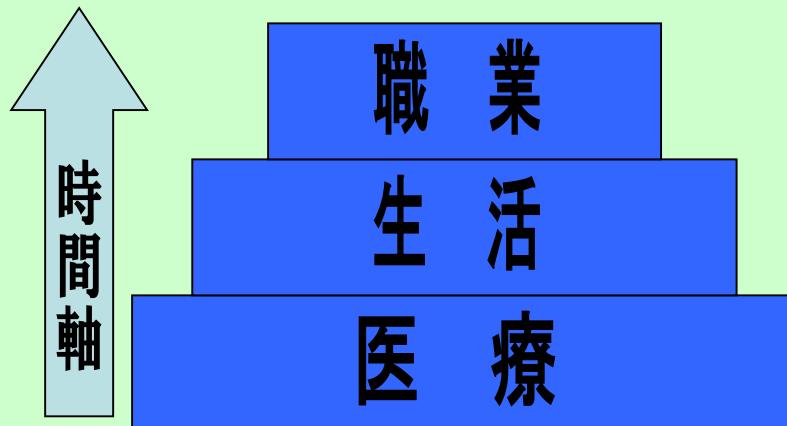
I P S モデルへの誤解

就労準備をしなくて
大丈夫なの？？

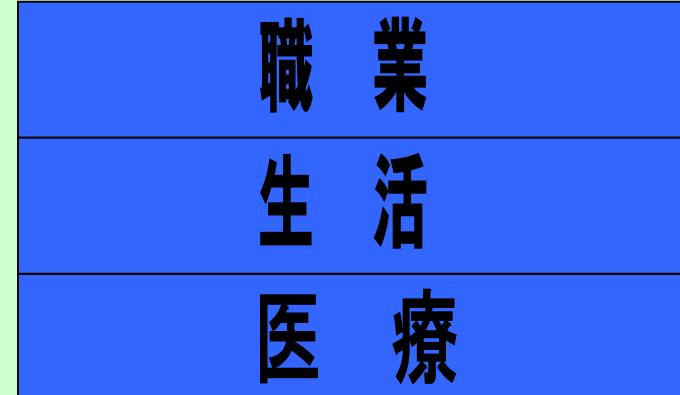
「いいえ」
働くことそのもののサポートと
病気との付き合い方のサポートも
同時に行います。

医療・福祉・職業の関係

医療・福祉・職業の階層構造



医療・福祉・職業の並行関係



本間武蔵「働くこと」への支援～医療・保健分野の現状と課題～より

I PSモデルへの誤解

訓練をしていないと定着率は良くないので？
長い目で見れば、総収入は少なくなるのでは？

就職率や収入量ではなく、
大切なのは、リカバリーです。

ご本人と支援者が話し合って道を進むことが大切